

# 2026年 迎春

# Vol.93

ASAKURA CONFERENCE OF NURSING  
CARE INSURANCE BUSINESS

一般社団法人

朝倉  
介護保険  
事業者協議会  
会 報

令和 8 年 1 月 1 日発行  
(一般社団法人 38 号)

## 新年のご挨拶

一般社団法人 朝倉介護保険事業者協議会 会長 今村 順

新年あけましておめでとうございます。

平素より当協議会の運営ならびに各種活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

近年の物価上昇は、事業所運営のみならず私たちの生活にも大きな影響を及ぼしています。最低賃金引上げや給与所得改善の議論が進む一方で、医療・介護分野における処遇改善は必ずしも十分とは言えない状況です。そのような中であっても、会員の皆様が厳しい環境下で利用者の暮らしを支え続けておられることに、改めて深い敬意を表します。

また、近年多発する大規模災害は、介護現場における安全確保と事業継続体制の重要性を一層浮き彫りにしました。被害が大きくなるほど、私たちへの社会的ニーズが高まることも実感しています。

昨年の新年あいさつでは能登半島地震に触れ、被災地の復旧・復興を支援する活動を通じて「まちづくり」「ひとづくり」に寄与する旨を申し上げました。多くの皆様のご理解とご支援により、昨年一年で延べ 35,000km に及ぶ能登支援を継続することができました。副会長をはじめ執行部、運営部長の皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。

被災地支援を通じて、現代社会は便利さの一方で、災害の頻発、社会インフラの老朽化、人口減少など、自己完結では立ち行かない課題を抱えていることを改めて認識しました。だからこそ、社会連帯や連携が重要であり、その「つながり」は日々の関わりの積み重ねから紡がれるものです。それこそが当協議会の存在意義であり、現在の姿であると確信しています。

本年も当協議会として、互いに支え合い、必要なお節介を惜しまず取り組んでまいります。  
変わらぬご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



協議会ホームページへ今すぐアクセス！ <https://asakura.in>

朝倉介護

検 索



## 事業報告 I 令和7年度 第2回スタッフセミナー

訪問看護ステーションととと 中牟田 由佳

令和7年9月11日(木)ピーポート甘木の中ホールにおいて第2回スタッフセミナーが開催されました。

「プライバシーの保護と虐待防止のための感情コントロール」というテーマで、アイヴィーケアプロジェクト代表・高橋いくこ先生を講師にお迎えし、ご講演をいただきました。講演では、プライバシー保護・個人情報保護・虐待防止・感情コントロールといった重要なテーマについて非常にわかりやすく実践的なお話をいただきました。



私たち医療・介護に携わる仕事は、利用者様の命や生活、そして尊厳に直接かかわるものであり、常に高い倫理観と責任意識が求められます。そのため、どれだけ善意からの行動であっても、受け手である利用者様にとって不適切であれば、それは信頼を損ねる行為になり得ます。

「100人のうち99人が意識していても、1人ができていなければ信頼はゼロになる」という言葉は、まさにこの仕事の厳しさと責任の重さを象徴しており、改めて、日々の業務の中で自分の言動や態度を省みる必要性を痛感しました。



また、プライバシーの保護や虐待防止といった理念は、理解しているつもりでも、実際には業務の都合や人手不足などによって後回しにされがちであることも、現場の実情として率直に語られました。たとえば、事故防止のために行動を制限したり、時間に追われて個々のニーズに十分に応じられなかったりする状況は、現場ではよくあることかもしれません。そうした“仕方がない”とされる行動の中にも、不適切ケアや虐待の芽が潜んでいることを指摘された点は、非常に重要な気づきでした。

感情のコントロールという観点では、「ストレスを抱えるときは、たいてい『自分ではどうにもできないこと』に直面している時」という言葉が印象に残っています。人を相手にする仕事では、自分の思い通りにいかないことの方が多いのが現実です。その中で、自分の「こうあるべき」といった固定観念にとらわれず、本当に優先すべき“目的”に立ち返ることの大切さを改めて教わりました。

例えば、「時間がないから早く着替えさせなければならない」と思う場面で、「この方が自分のペースで過ごせることが尊厳の保持につながる」と捉え直すことで、関わり方も変わってきます。自分の“べき思考”を、“どうしてあげたいのか”という目的意識に置き換え、ポジティブな発想で向き合うことが、感情のコントロール

にもつながるという考え方は、今後の実践に大いに活かせるものだと感じました。



最後に、自分の心と時間に余裕がなければ、利用者様の気持ちや小さな変化に気づくことも難しくなってしまいます。忙しさやストレスの中でも、自分自身を丁寧にケアしながら、より良い関わりを目指していく姿勢が大切だというメッセージを受け取りました。

高橋先生、このたびは貴重なお話をいただき、誠にありがとうございました。



## 事業報告Ⅱ 部会活動報告

### 介護老人福祉施設部会

特別養護老人ホーム日迎の園 眞田 幸司

介護老人福祉施設部会は令和7年12月現在、11事業所で活動しています。

現在は、年3回直接会議やZoom会議を行っており、施設運営に関する情報交換を行っています。施設間も顔見知りが多く、ざっくばらんに介護保険関係や運営指導監査の内容、外国人技能実習生や広報、厨房委託の件まで幅広く意見交換を行っています。

また、「災害時対応協定書に係る情報共有書」を各施設作成し毎年更新。人的支援・物的支援の内容を確認し、災害有事の際に協議会内の施設で助け合いができる体制を構築しています。

## 事業報告Ⅲ 行政との意見交換会

令和7年11月20日(木)筑前町のめくばーで、行政との意見交換会を開催しました。

介護人材確保の取組や認知症施策、地域における支援体制づくりなどをテーマに、行政・地域包括支援センター・事業者それぞれの立場から現状報告と課題共有が行われました。

活発な意見交換を通じて、分野や立場を超えた連携の重要性を改めて確認するとともに、今後の施策検討や地域包括ケアの推進に向けた有意義な機会となりました。



## 事業報告Ⅳ 令和7年度 第3回スタッフセミナー

朝倉介護保険事業者協議会 研修部長 坂口 昭太郎

令和7年11月28日（金）、ピーポート甘木中ホールにおいて第3回スタッフセミナーを開催しました。

朝倉医師会病院 感染管理特定認定看護師の古賀 尚史様を講師にお迎えして、「風邪や嘔吐下痢の感染対策」～クラスター感染を起こさないように～ をテーマにご講演いただきました。医療・介護現場の第一線で感染対策に携わってこられた立場から、現場目線での具体的なかつ実践的なお話を伺う貴重な機会となりました。



セミナーでは、新型コロナウイルス感染症への対応を振り返りながら、医療・介護現場においてクラスターが発生した際の影響の大きさや、標準予防策を徹底することの重要性について、改めて理解を深める内容でした。特に、コロナ禍で実際に経験した人的負担や経済的損失、職員や利用者・家族が抱えた心理的ストレスの具体例は、参加者にとって非常に現実味のあるものであり、感染症対策が事業運営そのものに直結する課題であることを再認識させられました。



また、BCP（事業継続計画）の策定・運用が義務化される中で、感染対策を単なるマニュアルや形式的なルールとして捉えるのではなく、「事業を止めないための仕組み」「サービス提供機能を守るための基盤」として考える視点は、多くの示唆を与えるものでした。標準予防策を基本としつつも、現場での判断が求められる場面について分かりやすく整理されており、日頃の対応や職員間の認識のばらつきを見直す良い契機となりました。

今後も、利用者の安心・安全な生活を支えるサービス提供体制を維持していくためには、感染症を特別な事象として扱うのではなく、日常業務の延長線上で備え続けることが重要です。そのためには、組織全体で共通認識を持ち、継続的な研修や振り返りを行っていく必要性を強く感じました。

古賀先生、お忙しい中、貴重なご講演ありがとうございました。

研修部としては、今後も朝倉介護保険事業者協議会の会員の皆様にとって、実務に活かせる有意義な研修を提供できるよう、アンケートで寄せられたご意見・ご要望を踏まえながら、研修内容の充実と企画運営に努めてまいります。





## 事業報告Ⅴ 令和7年度 あさくら祭りに参加しました

「あさくら祭り」が令和7年11月22・23日の2日間、ピーポート甘木周辺にて開催され、約41,000名の来場者が訪れました。特設ステージでは、リレーのように次々と乾杯をつなぐ「最も長い乾杯リレー」で2022人のギネス世界記録を達成するなど、会場は両日とも多くの市民で賑わい、終始活気にあふれた催しとなりました。

当協議会も、介護の仕事の魅力や大切さを市民の皆様伝えるため、朝倉市介護サービス課と連携して、介護相談窓口、体力測定（骨密度・握力）、高齢者疑似体験（輪投げ）、施設紹介パネルの展示などを実施しました。幅広い世代の方々にブースへお立ち寄りいただき、楽しみながら介護への理解を深めていただく機会となりました。



## Hobby Box

福島医院 福島 康道

私は幼い頃に大きな犬に追い回された経験から、動物、特に犬が苦手で、ペットとは無縁の生活を一生送るものだと思っていました。

しかし、愛犬家である福島家に来たことで状況は一変しました。犬に触れる機会が増え、現在17歳になるフレンチ・ブルドッグのボンが幼い頃に怪我をした際には、なぜか私が病院まで抱っこして連れて行く役目を担うこととなり、恐る恐る車に乗せて、無事にその任務を果たしたこともあります。

そして今では、気がつくとなが家にフレンチ・ブルドッグのおもちが加わり、早朝の散歩では私の相棒として活躍してくれています。以前はショッピングの際にペットショップに足を向けることなどありませんでしたが、今では見かけると必ず立ち止まり、さまざまな犬種を可愛いと思えるようになりました。グッズは買わないよう心がけているものの、おもちに似合いそうなものを探す楽しみも増え、つい立ち寄ってしまうお店の一つになっています。

人はいつ、どこで変わるかわからないものだ実感しながら、おもちに癒されつつ、日々の仕事を乗り越えています。なお最近の一番の関心事は、娘たちのために入手困難なシールを探すことです。

## 介護スタッフリレーコラム

### 「振り返れば・・・」

ケアプランサービスきらく荘 矢野 直美

現在、私は居宅介護支援事業所で管理者兼介護支援専門員として働いています。23歳で介護の業界に入り、平成16年(第7回)介護支援専門員受験に挑戦。今となっては笑い話ですが、当時臨月だった私は試験に備え、特別室を交渉した思い出があります。受験を無事終え、約一週間後に長女が誕生。合格通知が届き喜びもつかの間、その後3ヶ月間の実務研修は予想以上にきつく、途中で諦めようかと真剣に考えたものです。

今では長女とともに授かった大切な資格となっています。そんな私ですが、平成19年より居宅介護支援事業所で介護支援専門員として実務経験を積んできました。介護保険制度をはじめ、介護支援専門員を取り巻く環境も目まぐるしい変化です。「仕事を楽しむ」をモットーに、微力ながら地域貢献できるよう、まだまだ前進し続けたいと考えています。

また、ICTを活用したケアマネジメントへの取り組みにより、業務効率化・多職種連携強化・BCP対策、またChatGPTなどの生成AI活用にて記録業務の効率化など、新しいことが定着できるよう取り組んでいきたいと考えています。皆さんと一緒に頑張りましょう。

## 徒然日記

デイサービスセンター美和の里 陣内 孝明

### ～新たなスタートと挑戦～

2026年(令和8年)新しい年の始まりとなりました。ご縁あり、令和6年4月よりデイサービスセンター美和の里の管理者(生活相談員兼)として微力ながら携わり、2年目も残すところあと僅かになろうとしている今日この頃。

通所介護は初めての経験でしたが、美和の里には経験豊富&パワフル&明るく協力的なメンバーばかりの中で、やりがいを感じながら仕事をする事ができています。また、この地元筑前町の多くの方にもご利用いただき、ご長寿でお元気な方ばかりには大変驚かされています。

さて、私自身、新たな年となった1月からは、法人内の居宅介護支援事業所で介護支援専門員

として携わることになりました。地域包括支援センターの社会福祉士として5年間の経験はありますが、またまた居宅介護支援事業所は初めての経験でドキドキです。

介護支援専門員に合格した、第21回(2018年・平成30年度)では、過去最低の合格率(全国10.1%、所属している佐賀県では全国最下位の5.6%)を思い出します。

新たな気持ちで挑戦していきたいと思っています。朝倉介護保険事業者協会の皆様とお会いする機会が多くなると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 編集後記

2026年は午年。

馬は速さだけでなく、道を覚え、荷を運び、人と歩調を合わせる賢さを持つ動物です。

本号の研修や部会活動、行政との意見交換の記事等、一つひとつは地道ながら、地域を支える確かな歩みだと思います。

『焦らず、無理なく、しかし止まらずに。』今年も皆さまと共に前へ進んでいきたいと思っています。

(広報部：尾花)

### 事務局

朝倉介護保険事業者協議会 事務局  
〒838-0069 福岡県朝倉市来春 422-1  
一般社団法人 朝倉医師会  
介護支援センター 医師会ケアプラン  
TEL 0946-21-8022 FAX 0946-21-8028

### 編集／発行所

朝倉介護保険事業者協議会 広報部  
〒838-1702 福岡県朝倉郡東峰村福井 942-1  
社会福祉法人 朝倉恵愛会  
特別養護老人ホーム 宝珠の郷  
TEL 0946-72-9811 FAX 0946-72-9813  
印刷／井上総合印刷株式会社